

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 0171200157 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 恵庭南病院 | | |
| 事業所名 | グループホーム 恵風 | | |
| 所在地 | 北海道恵庭市緑町2丁目12番12号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年11月10日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年3月3日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切にしながら、入居者のできること・できないこと等を見極め支援することを職員全員で取り込んでいます。
 自由メニューやボランティアの訪問を受け入れ、家族や町内会の方々との交流もできる時間を設け、入居者が楽しく生活して頂けるように心がけています。
 経営母体は病院で、職員は(看護師・介護職員)ほぼ病院勤務経験者か、施設勤務経験者です。
 健康・医療面で病院と連携し安心して生活して頂けるような支援を心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171200157-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット |
| 所在地 | 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401 |
| 訪問調査日 | 令和2年12月18日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 事業所理念である「家庭的な雰囲気なかで、一人ひとりの尊厳と自立、地域交流を大切に、認知症介護の専門知識を持ってケアに努める」の実践に、職員は真摯に取り組んでいる。
- 2) 利用者の気持ちに寄り添い、安心して暮らせる場を目指すと共に、出来る事はしてもらいながら、明るく活気ある事業所作りを努めている。母体病院からの定期的な訪問診療や常勤看護師の配置等、医療との連携をスムーズにすることで利用者、家族の安心を担っている。また、運営推進会議や来訪時に寄せられた意見・要望については、事業所の考え・改善策を文書や口頭で伝えている。
- 3) 今年度はコロナ禍により、外出行事や面会の中止等、制限ある年であった。通例では地域との関係は大変良好であり、町内会のボランティア訪問の受け入れ、清掃活動や行事に利用者と共に積極的に参加している。また、定期的に町内に向けて新聞を発行し、事業所運営への理解・協力をお願いしている。今後も地域に開かれた事業所として、さらなる活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は居間や玄関前に掲示している。職員は理念に沿ったケアができるように心がけており、入職時に説明をし、会議等で振り返りを行っている。 | 利用者家族によって書かれた毛筆のホーム理念を、玄関前の目立つ場所に掲示しており、職員は定期的に振り返りの機会を持つことで、理念に沿った介護に努めている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している | 町内会に向けて新聞を発行している。また町内清掃への参加や、定期的に町内会のボランティアの方が訪問してくださっている。(コロナの為一部活動中止) | 町内会活動に積極的に参加しており、清掃活動や婦人部の食事会、事業所の行事に近隣住民を招待する等、相互の協力関係がある。また、定期的に新聞を発行し、気軽に立ち寄ることの出来る雰囲気作りで、地域交流に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や町内新聞・町内ボランティアの方の訪問日にホームでの暮らしぶりや取組を紹介したり、町内会の方々の直接の相談などを聞き、アドバイスをさせて頂いている。(コロナの為一部活動中止) | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 活動報告や身体報告だけではなく、ホームでの取り組みを紹介している。市役所・包括・消防署からのお知らせや報告を聞いたり、家族や近隣住民からの質問や意見も聞き活用している。(コロナの為一部中止) | 利用者家族、町内会役員、市担当者、包括支援センター等の出席を得て、年6回開催している。毎回、ヒヤリハットや事故報告、身体拘束適正化委員会の協議内容を報告し、運営への理解とサービス向上に努めている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議・電話や訪問等で報告・相談を行い多くのアドバイスを聞き、協力関係を築いている。(コロナの為一部中止) | 行政の窓口とは、定例の運営状況報告の他、運営推進会議や電話を通じて情報交換を行っており、アドバイスを得ている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修会に出席した職員を中心に、ホーム内報告・勉強会を行い、その他三か月に一度身体拘束につながる行為はないか話し合いを行い、運営推進会議で報告し、家族にも文章で報告している。 | 身体拘束等適正化委員会を設置し、3ヶ月毎の頻度で委員会を開催している。内容は日頃の介護の検証と全利用者の現状の確認であり、相手の立場に立って振り返りながら、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会に出席した職員を中心に、虐待につながる行為はないか、ホーム内で話し合いを行っている。(コロナの為一部中止) | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会に参加したり、市からの配布のパンフレットを使用しホーム内で勉強会を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 家族にはできるだけ事前に契約書・重要事項説明書等に目を通して頂き、入居者に説明し納得して頂いてから契約している。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 散歩中や日常会話の中から希望を聞き取り、食事や生活に取り入れるようにしている。 | 主に来訪時や電話で利用者の生活の様子を伝えている。また事業所のサービスや職員の接遇等、満足度について寄せられた意見や苦情を検証し、運営推進会議の場で公表しながら、実際のサービスに役立てている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見や要望は会議や個々に聞き取りをし、月に一度の代表者会議等で話し合いをし反映している。日常的に相談や意見を聞いている。 | 月例の会議の場で、職員からの提案や意見を聞き取り、ケア手法やプランに取り入れている。管理者との個別面談も年2回設定しており、年間の事業所と個人、それぞれの目標の達成具合を話し合っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者はできるだけ、管理者や職員の意見を反映した職場条件の整備をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 経験や能力に応じて、必要な研修や希望の研修への参加を指示している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内のグループホームネットワーク主催の研修会や交流会への参加を支援している。(コロナの為に一部中止) | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入院の方は面会に行ったり、自宅や施設からの入居の方もできるだけ家族とホームの見学に来て頂き、少しでも顔見知りになることで入居者の不安を軽減し、困りごとを話しやすい関係づくりを心掛けている。(コロナの為一部中止) | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前のホーム見学時に、家族の思いや困りごとを、少しでも受け止めるようにしている。(コロナの為一部中止) | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の要望を聞き、それぞれの思いが反映されるように、ケアに取り入れた支援を心掛けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者の得意なことや好きだったこと、できることを一緒に行ったり、教えてもらったりしながら関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時やホームからの発行の新聞・メッセージ等で本人の様子を伝えたり、誕生会・流しソーメン等で家族と一緒に過ごす時間を作っている。(コロナの為一部中止) | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力で入居前の美容室に出かけたり親戚の面会や、デイケアへのお出かけを支援している。(コロナの為一部中止) | 家族、知人の来訪があった場合は、居室にてくつろげるよう配慮している。希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 居間での会話やゲーム・レク等入居者同士の関わり合いが持てるように配慮している。(コロナの為一部中止) | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院となった入居者の面会に行ったり、家族とのコミュニケーションを大切にしている。(コロナの為一部中止) | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 活動の希望としては、本人との会話の中から見つけ出したり、言葉で表現できない場合は、以前から楽しみに思っていたことを取り入れたりしている。職員は会議等で情報を共有し把握に努めている。 | 日常生活の中から、意向や希望、好き嫌い等を汲み取り、月例の会議等で共有している。また、意向の把握が困難な場合は、生活歴や家族からの聞き取りで、本人本位の生活となるよう努めている。 | 今後は終末期について、本人がどのように過ごしたいか、具体的な思いを聞き取り・記録して、より本人本位の介護となるよう期待したい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や担当ケアマネ、医療機関より情報を収集、本人からは日々の生活の様子や会話の中から見出している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人のできること、少しの支援でできることを職員間で共有し、今の状況に対応したケアができるように努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | できるだけ本人や家族の意向を聞き、ホーム独自のアセスメント用紙を活用し、担当医の意見やリハビリスタッフの助言を参考に会議で話し合い、計画や支援の方法を決定している。 | 日々のモニタリング結果と、居室担当者から提出されたアセスメント様式を総合的に検討して、個々に合ったプランを作成している。また、必要に応じて随時見直しを行い、現状に即した計画、支援方法となるよう努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録や申し送りノート・口頭での送りを活用し、情報の共有を図りケアに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況に応じて、買い物や外出・受診等の支援を行っている。(コロナの為一部中止) | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 個々の状況に合わせ、町内活動の参加や町内ボランティアの受け入れで交流を図っている。(コロナの為一部中止) | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人と家族に意向を聞き、かかりつけ医を決定している。現在入居者全員が経営母体である、患庭南病院をかかりつけ医とし看護師が定期受診を支援している。 | かかりつけ医は本人、家族の意向に沿って自由に選択出来る。現在は全利用者が母体病院での診療を希望しており、常勤看護師の配置も併せ、家族の安心に繋がっている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 当ホームでは看護職員を配置しており健康管理や病院受診を支援している。介護職員は経営母体や介護施設での経験者で表情や体調変化を早期発見に努め、看護職員への報告や医療につなげる体制をとっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者とは、週一回会議を開き、情報交換を行っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に本人や家族に重度化した場合について説明し同意書を取り交わしている。また状況によって、本人や家族の意思に変化がないかを確認している。 | 重度化については、契約時の説明と状況変化に応じて繰り返し話し合い、今後の方針を共有している。母体病院との連携の下、本人と家族の希望に寄り添った支援に努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は救命講習を定期的に受講しており、休日・夜間は緊急マニュアルに添って行動するように周知徹底している。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練は母体病院からの応援や家族・近隣住民・消防署の立会・協力のもとに行っている。(コロナの為一部自粛) | 消防署の参加を得ながら、年2回の火災、地震災害を想定した避難訓練を実施している。近隣住民には避難後の見守り等、役割をお願いしている。他、母体病院との災害時の協力体制を定期的に確認している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇研修に参加することで振り返りをし、不適切な言動がないか会議等で話し合ったり、職員間で気が付いたときに、注意し合うことを心掛けている。(コロナの為一部中止) | 職員は主に接遇について、具体例を挙げながら日々相互にチェックすることで、その人らしく、尊厳ある対応となるよう努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人一人の理解力に応じた働きかけをし、話を傾聴することで自己決定ができるように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の希望に添って、散歩・パズル・リハビリの支援をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理美容は本人・家族の希望に添って決定している。日々の洋服はできるだけ本人に選んでもらっている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立と食材は母体病院より提供され、ホームで味付けや形状を工夫している。季節ごとの献立も盛り込まれていて、金曜日の昼食は自由献立となっている。外食や出前で入居者好みの物を提供している。(コロナの為一部自粛) | 昼食は、利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂り、お互いに楽しめる時としている。食事は母体病院から提供されているが、週1回、リクエストを反映した自由献立の日を設けたり、外食や出前といった工夫がある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士の献立を基に、バランスの良いメニューとなっている。食事量や水分量は介護記録に記入し、確認しやすくなっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケア、歯磨きを徹底している。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 介護記録の排泄記録を基に、排泄パターンの把握に努め、時間で声掛けをしたり、日勤帯は必ずトイレやポータブルトイレで排泄の支援をしている。 | トイレでの自力排泄を基本に、個々の排泄パターンを職員間で共有し、声掛け誘導を行っている。自然な排泄となるよう、食べ物や運動等を工夫している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分・運動・食物繊維等の使用等、個々に合わせた支援に取り組んでいる。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週二回の入浴日を設けている。体調や本人の希望を聞き、変更等しながら支援している。 | 毎日お湯はりを行い、希望や状況に応じて、気持ち良く入浴出来るよう支援している。拒否がある場合は無理強いせず、時間帯や担当者を調整しながら声掛けする等、工夫している。同性介助の希望も確認している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の体調や夜間の睡眠状態を考慮しながら、日中の仮眠を促したり、各居室の環境を整えたりしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は各入居者の内服薬の効果や副作用を確認できるようにファイルにし、内服時には2人で確認を行い、誤薬防止に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人のできる事、体調に合わせた役割を日課とし続けている。また週一回昼食を自由献立とし、楽しみにしていただけのように心がけている。外出やドライブも取り入れている。(コロナの為一部自粛) | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節ごとの行事では、初詣・お花見・町内行事の見学や参加の他、入居者の意見を取り入れた出前・テイクアウト・外食、毎日の散歩・日向ぼっこの支援を行っている。（コロナの為一部中止） | 地域行事への参加の他、個別に声がけし、町内の散歩を日課として出歩くように努め、閉じこもらない介護を実践している。また、遠方への外出や外食等の楽しみを計画し、家族の協力を得ながら支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 嗜好品や必需品を本人が買うことができるように、家族と相談しながら支援している。（コロナの為中止） | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 居間の電話は自由に利用することができ、職員が取次ぎをしている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じた、飾り付けを行っている。日常的には各自の作品や行事の写真を掲示し、振り返りや会話のきっかけとしている。各居室はストーブ、加湿器等を使用し温度湿度に配慮している。 | 建物内全体が明るく、清潔感があり、季節を感じられる装飾を心掛け、心とむ雰囲気大切にしている。食卓やソファを配置し、集団から少し離れて過ごせるスペースも確保している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースは個々の椅子を用意しゆったりと過ごしてもらっている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族とも相談し、タンス・コタツ・冷蔵庫・家族写真等、できるだけ使い慣れた家具類を置き安心して過ごせるようにしている。ホームの家具なども使用してもらっている。 | 居室には長年使用していた家具が持ち込まれ、壁面には家族の写真や飾りつけ等、自分の部屋として認識出来、違和感なく過ごせるよう工夫されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室前には表札を掛け、室内にも案内表示や掲示を行っている。個々の身体状況に合わせ、スロープへと改修したり、手すりの位置の変更を行っている。 | | |